



優秀賞

ライバルに勝つ

富山市立神通碧小学校3年 平永 爽太

ぼくには、三人の同級生がいる。今井くん森田くん、桐山さんの三人だ。この三人は、ぼくのライバルだ。とくに、この三人は、特きゅう力がすぐれている。

去年、「碧つ子マラソン」では、今井ちゃんと森田くんは、千メートルコースに出場した。千メートルコースは、上級生が走るコースだ。ぼくは、八百メートルコースをえらんだ。ぼくは、下学年で三位だった。うれしかったけれど、うれしくない。ふくざつな気持ちだった。ぼくは、本当は、千メートルコースを走りたかった。八百メートルコースには、ライバルの今井くん、森田くんはいない。ライバルがいなくてよいせいせきをとてもうれしくないのだ。ぼくは、ライバルたちときそい合いたい。ライバルに勝ちたい。

今、ぼくは、千メートルを楽に走れるようにトレーニングしている。学校で「元氣もりもり委員会」が計画してくれた「自分にチャレンジ！五分間走」では、五分間で十三周走ることを目指ようにしている。さいしょは、とてもきつかったけれど、だんだん楽になってきた。ライバルの今井くんは十五周、森田くんは十六周、桐山さんは十六周だ。強い。負けたくない。去年の自分にはもどりたくない。今年は、絶対、千メートルコースに出場して、ライバルたちに勝ちたいと思う。たまに、楽をしたい自分に負けそうなどきもあるけれど、その気持ちに負けないで練習をがんばりたい。

今年は千メートルコースに出場して、ライバルに絶対に勝つ。